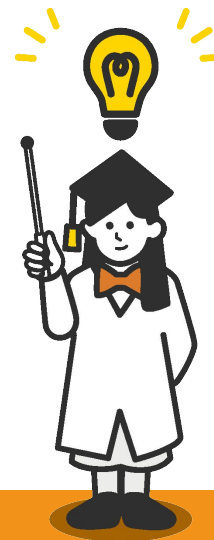




TOKYO METROPOLIS

# 学びのアップデート 33

Learning Updates



## Contents menu

- 01 授業場面に応じたデジタルツールの活用実践事例動画
- 02 東京都が2月以降新たに公開した「デジタルを活用した実践事例」

子供たちの意見をクラス全体で共有したいけど、  
デジタルツールをどのように活用すれば  
いいのだろう。



授業のシチュエーションに  
合わせたデジタルの活用について、  
いい事例が知りたいな。



東京都では、授業の場面に合わせたデジタルツールの活用について、各学校の協力のもと、実践事例動画を作成しましたので、ぜひ御活用ください。

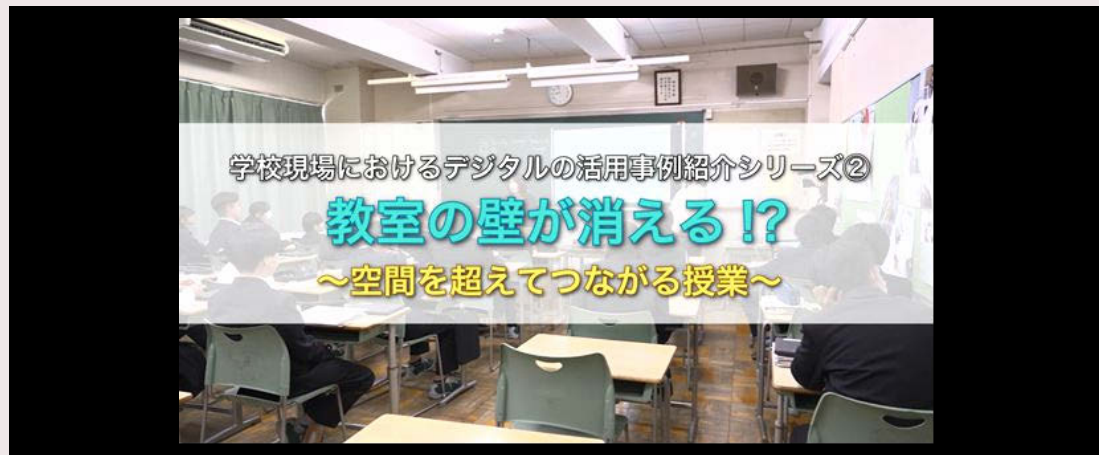






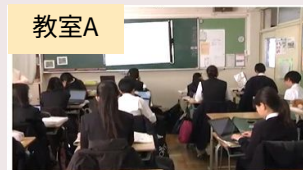
こちらは、東久留米市立久留米中学校の実践です。

## 「相互参照による個別最適な学び」の実践事例 (実践事例対象校・対象児童・生徒) 東久留米市立久留米中学校 第1学年：英語 第2学年：数学



- グループや個人など、一人一人が最適な学習形態を選択して主体的に学習
- 他者（他クラス含む）の多様な作品や解答プロセスのリアルタイム共有
- デジタル端末をツールとして活用し、対話と学び合いを活性化

➔ 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る実践



教室A



教室B



教室C



教室D

習熟度別で展開している全てのクラスで共有

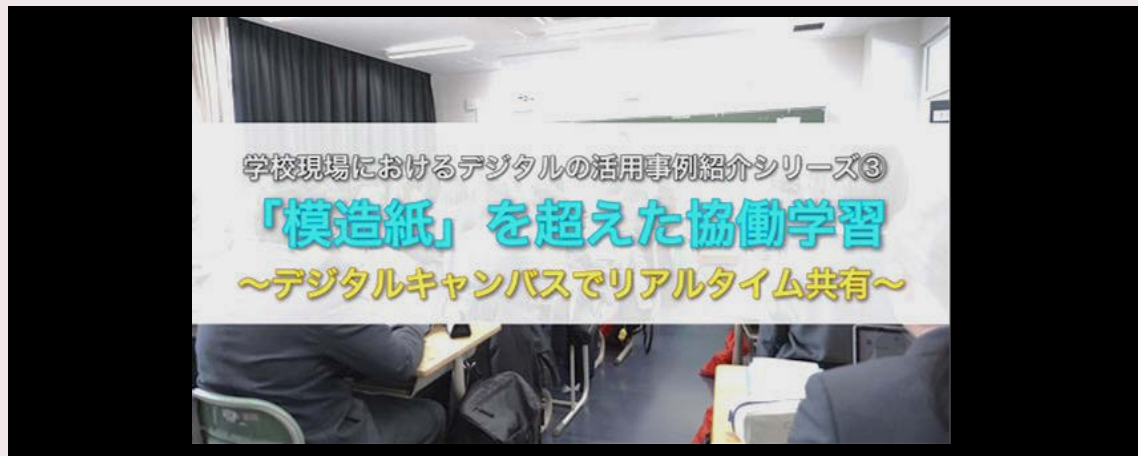


共有画面



こちらは、東京都立日野高等学校の実践です。  
デジタルツールの利活用について、これらの実践事例もぜひ御活用ください。

## 「主体的・対話的で深い学び」の実践事例 〔実践事例対象校・対象生徒〕 東京都立日野高等学校 第1学年：数学



- クラウド上の共同編集機能を活用した協働学習の展開
- 自他の思考プロセスの可視化と相互参照による、多角的な問題解決
- 対話を通じた深い理解が、数学への苦手意識を軽減し、学習意欲を喚起

➔ **デジタルツールの日常的な活用による「主体的・対話的で深い学び」の実現**



2月以降新たに公開した実践事例です。参考にしてください。

### ○東京都多摩地区教育推進委員会からの報告

令和8年2月13日に実施された「令和7年度東京都多摩地区教育推進委員会報告会」の資料です。児童・生徒の一人1台端末等のICT機器を効果的に活用し、主体的・対話的で深い学びの実現を目指す授業実践報告書になっています。

報告書等URL：<https://www.tamajimu.metro.tokyo.lg.jp/tamasui/index.html>

東京都多摩地区教育推進委員会 第31次計画（通算第52年次）報告書

## 主体的に学習に取り組む子供の育成 ～デジタルを活用した学習活動を通して～

「バランス×仕掛け×場づくり」で  
学習者の主体性を引き出す

令和8年2月  
東京都多摩教育事務所

### 「バランス×仕掛け×場づくり」で「学習者」の主体性を引き出す

#### 提案1 子供の主体的な学びを促す 単元（題材）デザイン

令和8年度の研究に基づき、習得と探究をつなぐ単元（題材）デザインを講義、教師がなぜ学ぶか「何を学び、何ができるようになるか」とのようにより学びが「どのように生かすか」の場を構築したうえで、単元（題材）を題材から構築する。単元（題材）最終時の子供の姿を設定し、子供が自ら学習を調整する機会を設定しながら、単元（題材）をデザインする。

単元（題材）	探究の段階	習得の段階
探究時	探究時	探究時
習得時	習得時	習得時

単元（題材）最終時に、学習者自身で学習の進捗や、デジタルの活用を考える。

#### 提案2 子供の主体的な学びを支える デジタルの活用

子供が、毎時間の振り返りや板書の記録、学びを蓄積し、自ら学習を調整できるようにする。教師は、単元（題材）デザインの段階で、デジタルを活用して、自ら学習を調整する子供の姿を明らかにし、学習の場を構築しながら、場に応じた指導・助言・支援に役立てる。

協議におけるオープン＆フラットな環境

#### 提案3 オープン＆フラットな環境の中で考える 子供に学びを委ね、伴走する教師

子供に学びを委ねるには、教師自身に任せられる経験が自ら決める経験が必要であると考、協議会等では委員が意見を発信する機会を多く設定した。

協議におけるオープン＆フラットな環境

- ◆ オープン＆フラットな環境を整えること
- ◆ フラットな関係性を築くこと
- ◆ 安心して意見を言える、円滑に話し合えること

### III 研究の概要

#### ● 子供の主体的な学びを促す単元（題材）デザイン

令和6年度の研究に基づく、習得と探究をつなぐ単元（題材）デザインを踏まえ、教師が

- ・ 「なぜ学ぶか」
- ・ 「何を学び、何ができるようにするか」
- ・ 「どのように学ぶか」
- ・ 「どのように生かすか」

の4点を明確にしたうえで、単元（題材）を構想することにより、資質・能力を育成できると考えた。

単元（題材）全体を通して授業を構想することにより、子供が自ら学習を調整する機会を増やし、主体的に学習に取り組むことができるようになった。

前半の検証授業の考察から、単元（題材）終了時の子供の姿（ゴールイメージ）を想定して考える「授業デザインシート」（P.46 参照）を作成し、授業を行った。本シートは、単元（題材）の最終時から計画を考える構成にした。

また、本シートは、教師が何をどう教えるのではなく、子供が何をどのように学ぶかという視点で単元（題材）全体を通して授業を構想するようにした。

#### ● 子供が自ら学習を調整し、主体的に学ぶためのデジタルの活用

子供が自ら学習を調整するために、以下の視点からデジタルの特徴及び強みを生かして実践を行った。

- ・ 学習に見通しをもつ
- ・ 目標に向かって活動し、学習活動を振り返る
- ・ 自身の学びの状態を把握する
- ・ 学び方を選択する

また、単元（題材）をデザインする段階で、デジタルを活用しながら自ら学習を調整する子供の具体的な姿を明らかにした。

校種や教科等が異なる委員4～5人でグループを編成し、実践後は、授業内における子供の姿と教師の姿について協議し、デジタル活用の効果や環境設定の有効性を検証した。

習得の段階で身に付けた力を探究の段階で活用することや、探究の段階での必要感、気付き等に応じて習得の段階と往還することを示している。

習得の段階

つなぐ

探究の段階

なぜ学ぶか

何を学び、何ができるようにするか

どのように学ぶか

どのように生かすか

基本的な考え方

#### ● 子供が自ら学習を調整し、主体的に学ぶためのデジタルの活用の有効性

毎時間の振り返りや板書の記録等、子供が学びを蓄積することで、自ら学習を振り返り試行錯誤するなど、学習を調整する姿が見られた。また、教師は、デジタルによる子供の学習の履歴を確認しながら、個に応じた指導・助言・支援に役立っていた。

教師がデジタルの活用を指示するのではなく、子供が自分でデジタルを活用する場面や内容を選択できるようにすることで、目的に沿った活用を判断する機会となり、自ら学習を調整することに有効であった。

過去の資料についてもアクセスできることや考えを共有し、随時、他者参照できることなどの手立てを打てば、それぞれの学びを深めることができた。

教師は、デジタルを活用することにより、子供の学びの状況を瞬時に把握することができるようになった。これまでノートを回収して、授業後に行っていた教師のフィードバックを授業中に即時に行うことができたため、授業内で、子供の理解につながる場面が増えた。

子供が個別にデジタルを活用した学びに取り組む中で、子供のつまづきを授業内でフォローをする余裕が生まれた。

## 子供によるデジタルの主体的選択と学習の自己調整

- 教師がデジタルの活用を指示するのではなく、子供自身が活用場面や内容を選択できるようにする。

## 学習状況の瞬時的な把握と授業内での即時フィードバック

- 教師はデジタルの学習履歴を随時確認し、個に応じた指導・助言・支援に役立っている。

## 子供の主体的な学びを促す単元（題材）デザイン

- 最終時の子供の姿を想定し、学習を自己調整する子供の姿や、デジタルの活用を考えながら、単元（題材）を構想する。

## 随時の他者参照と協働的な学びの充実

- デジタルを活用して他者の意見や過去の資料にいつでもアクセス・参照できる環境を整え、子供の考えの広がりや深まりにつなげる。

東京都多摩地区教育推進委員会 第31次計画（通算第52年次）報告書 「研究の概要」P.3  
「研究のまとめ」P.48

[https://www.tamajimu.metro.tokyo.lg.jp/tamasui/files/07tamasui\\_report\\_02.pdf](https://www.tamajimu.metro.tokyo.lg.jp/tamasui/files/07tamasui_report_02.pdf)

報告書内には、様々な実践事例が掲載されています。  
東京都が公開しているデジタルを活用した実践事例をぜひ御活用ください。



学習指導要領に示されている資質・能力を育むには、指導方法、学習方法、学習環境等を更新し、最新のものにする必要があります。

また、Society5.0に向けて、ICT機器及び環境というハード面と、それらをどう利用していくか、授業そのものをどのように構成するかというソフト面の両方のアップデートが求められています。

そこで、これからの「学び」を最新のものに「アップデート」していただくことを願い、本通信のタイトルを『学びのアップデート』としました。東京都教育委員会のホームページにも掲載する予定です。

### 学びのアップデート

Society5.0 に向けた一人1台端末の活用のための実践事例通信  
第33号 令和8年3月27日発行 東京都教育庁総務部デジタル推進課